松波むかし語り　ここに住み続けて　その42

今回のお客様

鍋島整形外科の院長

鍋島（なべしま） 和夫（かずお）さん　73歳　4丁目

“町ぐるみで、いい生活習慣を身につける運動をしてほしいですね！”

インターネットで「鍋島整形外科」を検索すると、「スポーツ選手の傷害相談のほかトレーニング指導等の活動を行っています」、「メディカルサポート(トレーナーによる各種競技力向上のための支援活動)を行っています」とあり、「サッカー日本代表」や「なでしこジャパン」にも関係しておられるとか。スポーツと密接につながったお仕事なんですね。もともとスポーツをしておられた？　「ぼくは昭和14年、高知市で生まれましたが、中学・高校とサッカーをやっていたために、千葉大医学部に入ったとき、スポーツ医学をやろうと思ったんです」。はて“スポーツ医学”、スポーツ選手のケガの治療やリハビリの指導などを指すのでしょうか？　「スポーツ医学というのは、全日本のような一流の選手がケガをする、でもまた前と同じプレーをしたいとします。その場合、私たち医者に求められる医療というのは、世界とたたかえる水準の体に戻すことですから、その要求度はとても高いわけです。そうだとすれば、そうしたトップ選手に見合う治療ができれば、一般の患者さんの治療もできる、そう考えています」。

先生からはしきりに“チームプレー”という言葉が出ます。「スポーツ医学では、医者ががんばるだけではだめです。トレーナーも含めて、チームで対応しないと成果はあがりません。医者は治すお手伝いをしますが、医療というのは人間関係で成り立っていて、みんなで行う協同作業なんです。みんなで支え合うためには、相手の立場を理解したり感謝したりできないとうまくいきません」。その時、先生は、急に見ず知らずの患者が運び込まれる救急医療のむずかしさを言われました。なるほど、町内会という活動も似たところがありますね。「そうなんです、長寿といっても“健康長寿”でありたい。体重が増えれば腰にきたりひざが痛むことにつながりますが、生活習慣を改めるのは一人では難しいです。家族ぐるみ、町ぐるみで見直すような運動をしてほしいですね」。

来年で開院３０年を迎えます

松波の印象はどうでしょう？　「私は川鉄千葉病院に勤務していた関係で、以前、松波郵便局の並びにあった川鉄の３軒長屋の社宅に住んでいました。子どもたちがまだ弥生小に通っていた時分ですが、庭にテントを張ったりして遊ばせたものです。その頃は通りにも商店が並んでいて、おっとりした町という印象がありました。この町はちょっと歩けば公園もあるし、千葉大の桜もきれいです。恵まれた町ではないでしょうか」。千葉大では、１万人の避難所を想定して、秋からグランドに人工芝を張る工事が始まるそうです。実現すれば、千葉大は松波にとってもっと身近な存在になるでしょう。

最後に、おそるおそる聞いてみました。「『恐い先生』という評判もありますが……」と。すると先生は、「もしそういう評判があるとすれば、医療というのは事故が起これば一生の問題になるので、真剣にならざるを得ないからでしょう」との回答が返ってきました。